

第3回瀬田川整備検討委員会  
議事概要

1. 日 時：令和7年3月19日（水） 13：30～15：20
2. 会議方法：対面及び web
3. 出席者：別紙 委員名簿参照

4. 議事概要

事務局：欠席委員よりいただきましたご意見をご紹介させていただく。スライドダウン掘削の施工期間が20年間と、手間がかかり現実的でないことを理解した。平水位掘削は、自然環境、景観、親水性に配慮されていて最適な改修方法であると思う。モニタリング計画についても新しい計測技術を取り入れて信頼性も高まっていると思う。また、親水性については国民スポーツ大会の開催時期と施工時期がずれるので、国民スポーツ大会の協議に影響がなく問題はない。ただし、今後の各種競技大会もあるので、施工のタイミングや配慮等を関係者にヒアリングして施工を進めてほしい。

委員：平水位掘削を実施する際は、出水の減水時に大きなたまりが形成され魚が取り残されないような工夫が必要である。小さなたまりは仕方がないが、大きなたまりができる場合は、下流方向に逃げられるような傾斜をつける等の対策が考えられる。特に瀬田川の洪水は人的操作による琵琶湖後期放流で急激に減水するので魚が取り残されやすい。

事務局：頂いた意見を踏まえて施工方法を考えていきたい。

委員：実際の施工は実施する業者にこまめな指導が必要になる。景観的にアンジュレーションは残しつつも縦断的あるいは横断的に傾斜や逃げ道をつけて大きなたまりができないような工夫、そういった生態系に配慮をした掘削を施工していることが、瀬田川改修の売りになると思うので努力してほしい。

委員：平水位掘削により普段浸からない平らな広い掘削面ができると、キャンプなどの利用が増えるのではないかと。管理上、利用者増加を見込むのかどうか。見込まないのであればナチュラルな凹凸を残すことも必要だと考えられる。

事務局：レジャーシートを敷いて長居するような利用者を呼び込むことは想定していないし、フラットすぎる掘削面は景観上もよくないと考えている。説明でも示した試験掘削などを通して自然な凹凸ができるように検討していきたい。

委員：景観について、平水位掘削を採用することで改変範囲や施工期間が縮小したことはよいことである。施工期間が9年間とのことだが、国の整備費用が縮小しているなかで、できる限り無駄を省いていくことが必要である。バックホウアタッチメントの話があったが、景観に配慮して修景工法を実施すると、どうしても人為的な風合いとなるため、修景工法を実施しない意義を周知すべきだと思う。いまある現状の風合いを凍結保存するような方法ではないので、どれだけ多くの人の眺望対象となるかで修景の必要性を吟味して、コスト縮小を図ってほしい。施工期間の9年間について、施工の効率化によりもう少し短縮できるような可能性があれば教えてほしい。

事務局：景観の修景に関しては施工の節目で委員の皆様に現地を見学いただき、ご助言を頂きながら、丁寧に施工を進めていきたい。理想的には先ほど紹介した曾木の滝分水路のように施工できればと思う。工期については、長ければ費用も大きくなるため、スライドダウン掘削の工期と比べて半分になる平水位掘削を採用したところである。現時点で工期を短縮できるような方法は見当たらないが、治水対策の早期効果発現の観点からも引き続き工期短縮の実現性を検討していきたい。一方で、9年間は全体整備期間なので、当面整備をしたあとモニタリングもして残区間をどうするかという段階的な施工も考えているところである。予算の話はあるが、近畿地方整備局として滋賀県とも連携して治水対策の早期効果発現を図りたい

委員：コストに関連して、掘削土の処理について廃棄物としての処理ではなく、滋賀県とも連携して有効活用しコスト削減に努めてほしい。

事務局：滋賀県等と連携してコスト削減に努めたい。一例であるが、溪谷より下流の河川区域内の天津市占用域が鹿跳溪谷改修で放流量が増えることで水没の可能性がある、嵩上げするとか事務レベルでは話しているところである。

委員：スライドダウン掘削の施工期間20年間から平水位掘削の施工期間9年間にしたことはリーズナブルと評価している。また、水面下を掘削しないのでラフティングの利用にも影響を与えず高評価である。ただ、平水位掘削面に土砂が溜まり植生が繁茂するというリスクを確認しておきたい。P30の長期の河床変動解析で途中土砂が溜まる過程があったのか、それとも全く溜まらないのか教えてほしい。また、現地を理解できていないが、現状で土砂が溜まり植生が繁茂しているような状況はないか。あと、今後、段階整備したときに土砂が溜まるようなことがあれば計画を部分修正していけばいいのではないか。

委員：大事な指摘で、結局粗度調整をしても土砂が溜まって植生繁茂し、粗度係数が上がっては意味がないということだと思う。

事務局：解析の途中段階で土砂堆積が生じているか、いま回答を持ち合わせていないため確認したい。現状では現地を見ても土砂が溜まって植生の繁茂が目立った箇所はないので、平水位掘削しても土砂堆積し植生が繁茂することはないと想定している。

委員：土砂の堆積状況についてのモニタリングも重要で、異常が確認されれば修正していくことが大事である。

委員：粗度係数モニタリングの結果 1,420m<sup>3</sup>/s の流下能力が妥当となった場合、1,500m<sup>3</sup>/s まで増加させるとき、どの辺を追加掘削するかイメージはあるか。

事務局：まず、どこを追加掘削するかについては、平水位以下まで掘削するか、あるいはスライドダウン掘削と併用するような掘削になるか、引き続き検討する。

委員：県庁各課の意見照会の結果を 5 点紹介させてもらう。県道の大津南郷宇治線が並走しているので県道に影響がある場合は対策してほしい。次に、国民スポーツ関係で大会の後も水面利用者に配慮した整備にしてほしい。次に、国定公園法に関連して当該地域は琵琶湖国定公園第二種特別地域に該当しているため自然公園法第 68 条 1 項の規定により協議が必要であり、有識者に意見を聴取しながら適切な対応をお願いしたい。続いて、米かし岩は滋賀県の自然環境保全条例第 21 条 1 項に基づく自然記念物であり、事業実施に当たっては十分に配慮してほしい。最後に景観法の関連で大津市が景観計画を策定されていること、また大津市も当委員会の行政委員に入っていることから、景観面について大津市の意見を尊重頂きたい。

事務局：自然公園法等、手続きをぬかりなく進めていきたいと考えているのでよろしくをお願いしたい。右岸側の県道については影響や対策については実務レベルで大津土木事務所と協議しているので引き続き円滑なコミュニケーションをお願いしたい。また、カヌー協会さんからご要望を頂いたことがあり、その後、改修断面の方向性をご承認頂けるのなら細かな整備の内容についてご意見を賜りたいと考えている。

委員：総括だが滋賀県としては今回提案頂いた平水位掘削について特に意見はない。引き続き鹿跳溪谷の早期かつ確実な整備をお願いしたい。

委員：佐久奈土公園やテニス広場など大津市が河川区域の一部を占用している箇所については、引き続き大津市と調整を続けていただきたい。

委員：琵琶湖後期放流の目標  $1,500\text{m}^3/\text{s}$  について、国としては  $1,500\text{m}^3/\text{s}$  以上流してはいけないという重いミッションがある。一方、滋賀県は目標  $1,500\text{m}^3/\text{s}$  であると。その辺はすりあわせをしっかりと頂きたい。掘り過ぎると取り返しがつかないので、粗度係数を求めるモニタリングが大事になるのではないかな。工事期間中でもドローン等で流量・水位観測して粗度係数の逆算をしっかりとしてほしい。その他、土砂堆積や環境等のモニタリングをしながら順応的な整備をしていくことが大事なのでよろしくお願いしたい。また、滋賀県の意見にあったように曾木の滝分水路の施工について情報を得ることも重要である。

## 第3回瀬田川整備検討委員会 出席者名簿

| 役職                                  | 氏名                 | 備考  |
|-------------------------------------|--------------------|-----|
| 公益社団法人 びわ湖大津観光協会<br>副会長             | かねこ ひろみ<br>金子 博美   | 欠席  |
| 京都大学大学院 工学研究科<br>社会基盤工学専攻 教授        | かわさき まさし<br>川崎 雅史  | web |
| 立命館大学 理工学部<br>環境都市工学科 教授            | さとふか よしふみ<br>里深 好文 |     |
| 国土交通省 国土技術政策総合研究所<br>河川研究部 河川研究室 室長 | せ ざき ともゆき<br>瀬崎 智之 | web |
| 京都大学 名誉教授                           | なかがわ はじめ<br>中川 一   |     |
| 神戸学院大学 人文学部<br>元教授                  | まえはた まさよし<br>前畑 政善 |     |
| 行政                                  |                    |     |
| 国土交通省近畿地方整備局<br>琵琶湖河川事務所 所長         | わこう たかとし<br>若公 崇敏  |     |
| 滋賀県 土木交通部<br>流域政策局 局長               | つじ みつひろ<br>辻 光浩    | web |
| 大津市 建設部 部長                          | こじま ひろゆき<br>小島 浩幸  |     |

(五十音順 敬称略)